

科目名 (科目番号)	小児看護学 援助論 (A:074152/B:074155)	教員名 山縣 香織	学科等	看護	必修	履修年次	2
			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	2
			オフィスアワー				
授業概要	健康障害をもつ子どもと家族が、より良く生活・療養するための援助方法について学ぶ。健康障害が子どもの成長発達や家族機能に及ぼす影響について理解するとともに、子どもの特性をふまえた上で、病態・症状・看護を関連づけて理解する。また、小児看護に必要な技術について子どもの特性から理解し、安全安楽に実施できるよう演習を通して習得することを目的とする。 関連する垂直軸:看護、健康の状態、人間の理解、他職種連携						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	子どもと病気・入院・外来	到達目標:病気・障害を持つ子どもと家族の看護、入院中および外来における子どもと家族の看護を理解する。 学習内容:子どもの病気に対する理解力や病気・入院が子どもや家族に与える影響因子、外来看護の特徴と外来の機能、継続看護の実際について学習する。				
	2						
	3	急性状況下にある子どもと家族	到達目標:急性状況下にある子どもの看護を子どもに多い症状を理解する。 学習内容:急性状況下にある子どもと家族の特徴、子どもによくみられる症状と原因(発生機序)と身体機能の特徴との関係、そして個々の症状の観察ポイント、援助の根拠も踏まえた症状別看護について学習する。				
	4						
	5	低出生体重児と家族	到達目標:ハイリスク新生児と家族への看護を低出生体重児を通して理解する。 学習内容:低出生体重児の在胎週数と発育との関係および分類、低出生体重児の解剖・生理学的特徴、保育器の機能を含めた胎外適応への援助、家族の心理をふまえたケアの実際、退院後の継続看護および社会資源のシステムについて学習する。				
	6						
	7	手術・検査を受ける子どもと家族①	到達目標:周手術期の子どもと家族の看護および検査・処置を受ける子どもの看護について、総論的内容を理解する。 学習内容:小児期の手術の特殊性、検査・処置と子どもの反応と子どもの安全、プレパレーションの概念、子どもの力を引き出す援助、負担の軽減を目指した抑制方法、家族の思いについてを学習する。				
	8						
	9	手術・検査を受ける子どもと家族②	到達目標:周手術期の子どもと家族の看護および検査・処置を受ける子どもの看護について、特に小児に多い疾病を通して理解する。 学習内容:川崎病、心室中隔欠損症、ファロー四徴症、口唇口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプリング病、鎖肛をもつ子どもと家族における看護の実際を視聴覚資料も含め具体的に学習する。				
	10						
	11	長期フォローアップが必要な子どもと家族①	到達目標:慢性期疾患にある子どもと家族の看護について、総論的内容を理解する。 学習内容:慢性疾患をもつ子どもとその家族が直面する困難な体験とその心理、年齢(発達段階)に応じた子どものセルフケア能力を踏まえた支援の方法を学習する。				
	12						
	13	長期フォローアップが必要な子どもと家族②	到達目標:慢性期疾患にある子どもと家族の看護について、主な対象疾病を通じて理解する。 学習内容:ネフローゼ症候群、糖尿病、気管支喘息の子どもと家族の実際の看護について学習する。				
	14						
	15	看護過程の展開①	到達目標:子どもと家族に必要な看護とは何かを理解して、看護過程を展開できる。 学習内容:気管支喘息で入院した子どもと家族に関する事例を基に、小児のアセスメント指針を活用し情報の整理、分析・解釈、看護問題関連図の作成、立案までの一連の過程を学習する。				
16							

授業計画	17	看護過程の展開②	到達目標: グループ発表を通じて、気管支喘息の子どもと家族の看護について考えを深める。 学習内容: グループ毎の発表にて、気管支喘息で入院した子どもと家族についての情報の整理、分析・解釈、病態関連図、看護問題関連図そして看護診断に対する個別性のある計画について学習する。(グループ毎の発表)
	18		
	19	小児がんの子どもと家族①	到達目標: 小児がんの子どもと家族の心理を理解するとともに、小児がんの子どもの発達段階・病状・治療状況に応じた援助を理解する。 学習内容: 小児がんの子どもと家族の心理・社会的問題と看護師の役割、白血病・脳腫瘍における化学療法や外科的療法・放射線療法を組み合わせた集学的治療に対する看護について学習する。
	20		
	21	小児がんの子どもと家族②	到達目標: 小児がんの子どもに対する検査や処置の援助方法、小児がん看護における他職種連携によるチーム医療を理解する。 学習内容: 小児がんの子どもの痛みを伴う処置(腰椎穿刺、骨髄穿刺)について視聴覚資料も含めた具体的援助方法、小児がん看護における他職種連携とチーム医療について学習する。
	22		
	23	障がいのある子どもと家族	到達目標: 障がい児の福祉施策および療育の変遷と現状、障がい児をもつ家族の心理、必要な支援を理解する。 学習内容: 障害のある子どもとその家族に対する社会的支援と看護師の役割、医療的ケアにおける課題、そして小児看護実践と倫理的配慮との関連を学習する。また、障がい児施設看護職を外部講師として招聘し、障がいのあるこどもの特徴および親の心理過程、家族に及ぼす影響を実際の症例をもとに学習する。
	24		
	25	小児看護技術演習①	到達目標: 小児に必要な主な看護技術のなかで、モデル人形を用いての身体計測やバイタルサイン測定、また輸液管理に必要な器具の操作を通して体験的に理解する。 学習内容: 事前課題である「技術ノート」に記入することで基礎的知識を習得したうえで、乳児の身体計測を正確に測定する技術の学習、乳児のバイタルサインを正確に測定する技術の学習、特に小児における持続点滴中の管理方法を学習する。
	26		
	27	小児看護技術演習②	到達目標: 小児に必要な主な看護技術のうち、モデル人形を用いて、救急救命技術、おむつ交換と臀部浴、経管栄養の方法について体験的に理解する。 学習内容: モデル人形を用いて「心肺蘇生法」と「気道異物の除去法」の学習、おむつ交換と臀部浴の手技、健康のレベルや疾患に応じた食生活援助の1つである経管栄養法を学習する。
	28		
29	小児看護技術演習③	到達目標: 乳児のミニ事例をもとに輸液管理中の清潔ケアを実施し、必要な看護を理解する。 学習内容: 乳児期呼吸器疾患のミニ事例をもとに輸液管理中のモデル人形を用いて、学生間で役割分担(看護師・家族・観察者)しながら清潔ケアを実施し、お互いの体験を通して学び合いながら行う。	
30			
成績評価の方法・基準	試験(80%)・ミニテスト(20%)で評価する。		
教科書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学1 系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学2 1: 概論と同じ教科書 2: 1年に購入済	奈良間美保 丸光恵 他	医学書院
参考図書	ナーシング・グラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護 ナーシング・グラフィカ 小児看護学②小児看護技術 写真でわかる小児看護技術	中野 綾美 編 中野 綾美 編 山本 恵子 監修	メディカ出版 メディカ出版 インターメディカ
教員からのメッセージ	2年前期までに学習した「専門基礎科目」や「小児看護学概論」などの知識の不確かな部分は、自己学習して臨みましょう。 複数の事例や演習を通じて、受け身にならず自ら学ぶ時間になるよう工夫していきます。		